

2004年 6月 10日

## 「60代の住宅購入意識調査」

住替え需要は約30% 旺盛な需要が顕在化

株式会社長谷工アーベスト（本社：東京都港区、社長：安永雄一郎）では、この度、60～69歳の首都圏居住者を対象にWEBアンケート形式による「60代の住宅購入意識調査」を実施致しました。その結果、60代はリタイア後の生活を積極的に楽しむための住まいを望んでおり、住替え需要は約30%、うち約40%がマンションへの住替えを希望していることが分かりました。住替えのきっかけについては「定年退職」や「子供の独立」に伴うライフスタイルの変化・「住まいの老朽化」が主な理由となっていました。また購入の際のポイントとしては「立地」「住宅性能」の他、「買いやすい価格」「維持管理費の安さ」を重視していました（グラフ4矢印部分）。

### 【調査のポイント】

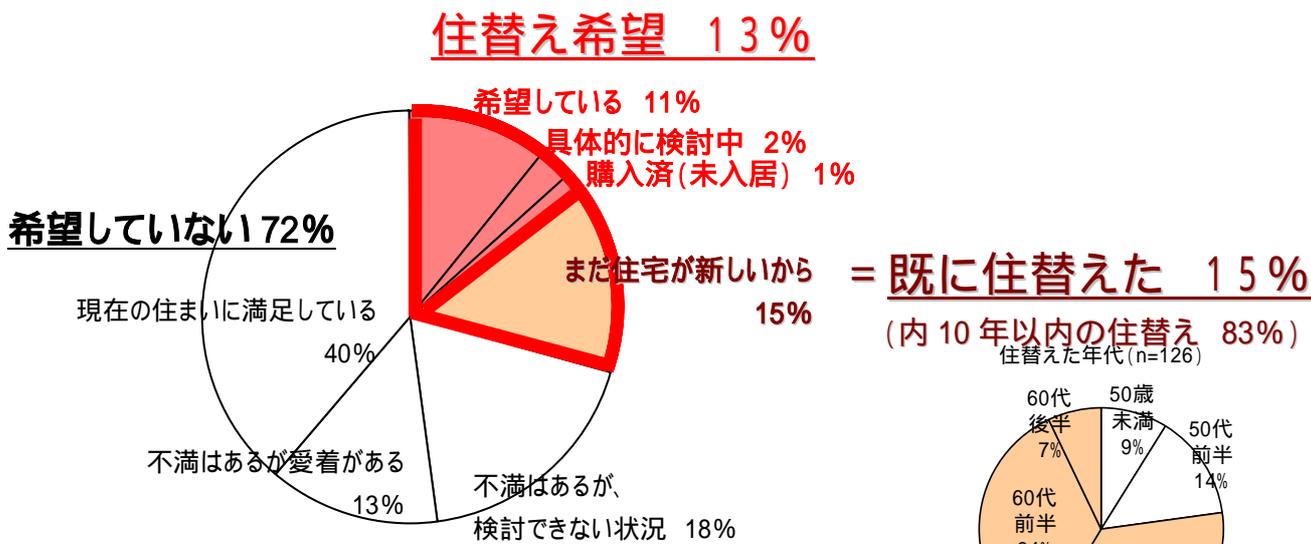
1. 住替え需要は約30%、うち約40%がマンションへの住替えを希望(グラフ1・2)  
今回、回答者である60代の15%が既に住替え済み、13%が検討中で、併せて28%の住替え需要が確認されました。うち約40%がマンションへの住替えを希望しており、現在の居住形態別に見ると、マンション居住者では約70%、一戸建居住者でも約30%の希望が見られました。既にマンションに住替えた回答者からは『立地がよい』『利便性が高い』『段差が少ない』『防犯性が高い』など、『60代にとって住みやすい』と高い評価を得ていました。
2. 住替えのきっかけは、ライフスタイルの変化・住まいの老朽化など(グラフ3)  
住替えのきっかけは、子育て重視で購入した住まいが「定年退職」や「子供の独立」を迎え、ライフスタイルの変化に合わなくなったこと、また30～40代で購入した住まいが、築20～30年となり老朽化したこと、が主に挙げられます。
3. マンションに求めるものは『立地』『住宅性能』に加え『買いやすい価格』『維持管理費の安さ』(グラフ4)  
マンションを購入検討する際のポイントとして『立地』『住宅性能』に加え、『買いやすい価格』『維持管理費の安さ』が上位に挙がっています。日常生活における『維持管理のし易さ』だけでなく、リタイア後を見据え資金的に無理のない生活を重視していることが分かりました。

：60～69歳の首都圏居住者を対象にWEBアンケートを実施。

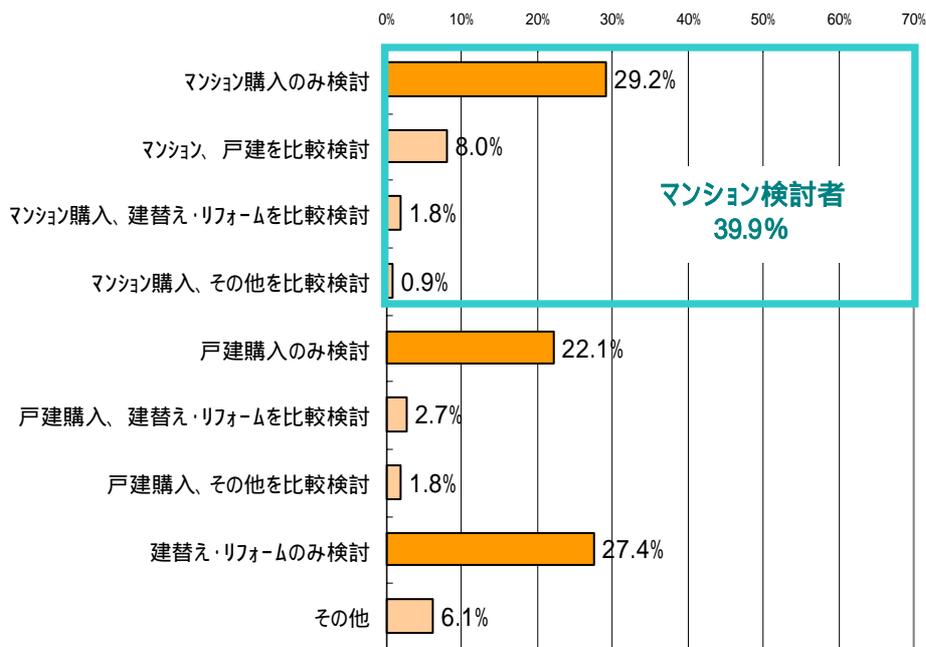
返信件数：967件、調査実施日：2004年3月13日～21日

【長谷工アーベスト 60代の住宅購入意識調査】

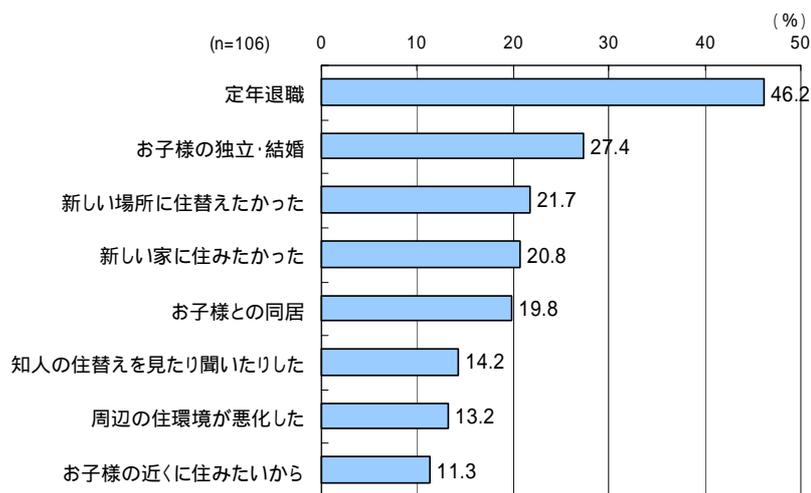
(グラフ1) 住替え検討状況 (n=852)



(グラフ2) 住宅検討の内訳 (複数回答 n=113)



(グラフ3) 検討を始めた主なきっかけ(複数回答)



(グラフ4) マンションを購入する際のポイント (マンション検討者)

(n=45)複数回答  = 重視度 50%以上

